

平成29年度防災教育・復興教育推進事業（いわての復興教育スクール）成果報告書

学校名：岩手県立宮古水産高等学校

I 事業の概要（地域の実情含む）

- (1) 岩手県共同実習船「りあす丸」と「海翔」での実習船非常時対応訓練（炊き出し訓練）を通して災害時における実習船の活用と防災への関心を高める。
- (2) 陸上の交通麻痺の際の海上からの支援活動の可能性や船の利点について学ぶ。

II 取組の概要

1 実習船を使った取り組み

- (1) 実習船非常時対応訓練炊き出し訓練（宮古市民、市役所、合同庁舎、小中学生、高校生）
- (2) 船と防災に関する出前授業（中学生）
- (3) 体験乗船（支援学校）
- (4) 防災を考える航海（中学生）
- (5) 「船ってすごいんだ」出前授業（小学生）

2 実施内容

- (1) 第1回地区防災教育推進委員会
- (2) 対応訓練の事前模擬訓練(2海技、専攻科)
- (3) 実習船緊急時対応訓練の実施
（宮古水産高校全校生(257名)、河南中学校1年生(63名)、藤原小学校4・5・6年生(30名)、他関係者 計400名）
- (4) 防災出前授業
活動の振り返り、取り組みの検証(活動のまとめ)
 - ① 河南中学校1年生 63名
 - ② 藤原小学校5・6年生 22名
- (5) 取り組み活動の報告会(研究発表)の実施
- (6) 第2回防災教育推進委員会、研修会
- (7) 県総合教育センター発表(藤原小、河南中、宮水高)
- (8) パンフレット作成・配布（藤原小、河南中、宮水高）

III 取組の成果と課題

1 成果

- (1) 宮古地域は太平洋に面し漁業が産業の中心であり、生活に密着した海や船と関連させた防災活動により地域全体の関心が高まった。
- (2) 出前授業では準備も含め生徒が主体的に取り組み問題解決の力が身についたことと、活動の振り返りにより防災について学習を深めるこ

とが出来た。

- (3) 炊き出し訓練で高校生の活動する様子を見て、小中学生は災害時に自分が出来る支援活動について考える機会となった。
- (4) 今回、地域や各学校種との連携出来たことで今後の防災教育を進める上で貴重な機会となった。

2 課題

- (1) 実習船非常時対応訓練（炊き出し訓練）について多方面から協力を得ながら大きな規模で2年間実施してきたが、関係者の参加の負担や準備、予算面などの課題生じた。しかし、地域全体で取り組むことで防災教育として成果もあげられるため今後も規模の縮小や形を変えるなどによって、よりよい方法を検討して行きたい。
- (2) 小学生、中学生は船に関心が高いことや地域の特徴も生かすなど、今後は船を活用した防災活動を中心に各学校種と連携し継続した防災教育に取り組んで行きたい。